
はじめに

このユーザーズマニュアルは、Symbol Editorの取り扱い上の注意/機能/操作方法などについて説明したものです。ご使用中にこのマニュアルをよくお読みいただき、正しくお使いください。お読みになったあとは、ご使用時にすぐにご覧になれるところに、大切に保存してください。ご使用中に操作がわからなくなったときなどにきっとお役にたちます。

なお、DLシリーズの取り扱い上の注意/機能/操作方法、Windowsの取り扱い/操作方法などについては、それぞれのマニュアルをご覧ください。

ご注意

- 本書の内容は、性能/機能の向上などにより、将来予告なしに変更することがあります。また、実際の画面表示内容が、本書に記載の画面表示内容と多少異なることがあります。
- 本書の内容に関しては万全を期しておりますが、万が一不審の点や誤りなどお気づきのことがありましたら、お手数ですが、当社支社/支店/営業所までご連絡ください。
- 本書の内容の全部または一部を無断で転載、複製することは禁止されています。
- 本ソフトウェアは、下記の DL シリーズに対応したデータファイルを作成します。
DL850V、DLM2000シリーズ、DLM4000シリーズ、DL6000/DLM6000シリーズ、SB5000シリーズ、DL9500/DL9700シリーズ、

商標

- Microsoft、MS-DOS、Windows、およびWindows Vistaは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- AdobeおよびAdobe Acrobatは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。
- CANdb およびCANdb++ は、ドイツVector Informatik 社の登録商標です。
- Windows Installer 3.1は、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- 本文中の各社の登録商業または商標には、®マーク、TMは表示していません。
- その他、本文中に使われている会社名/商品名は、各社の登録商標または商標です。

履歴

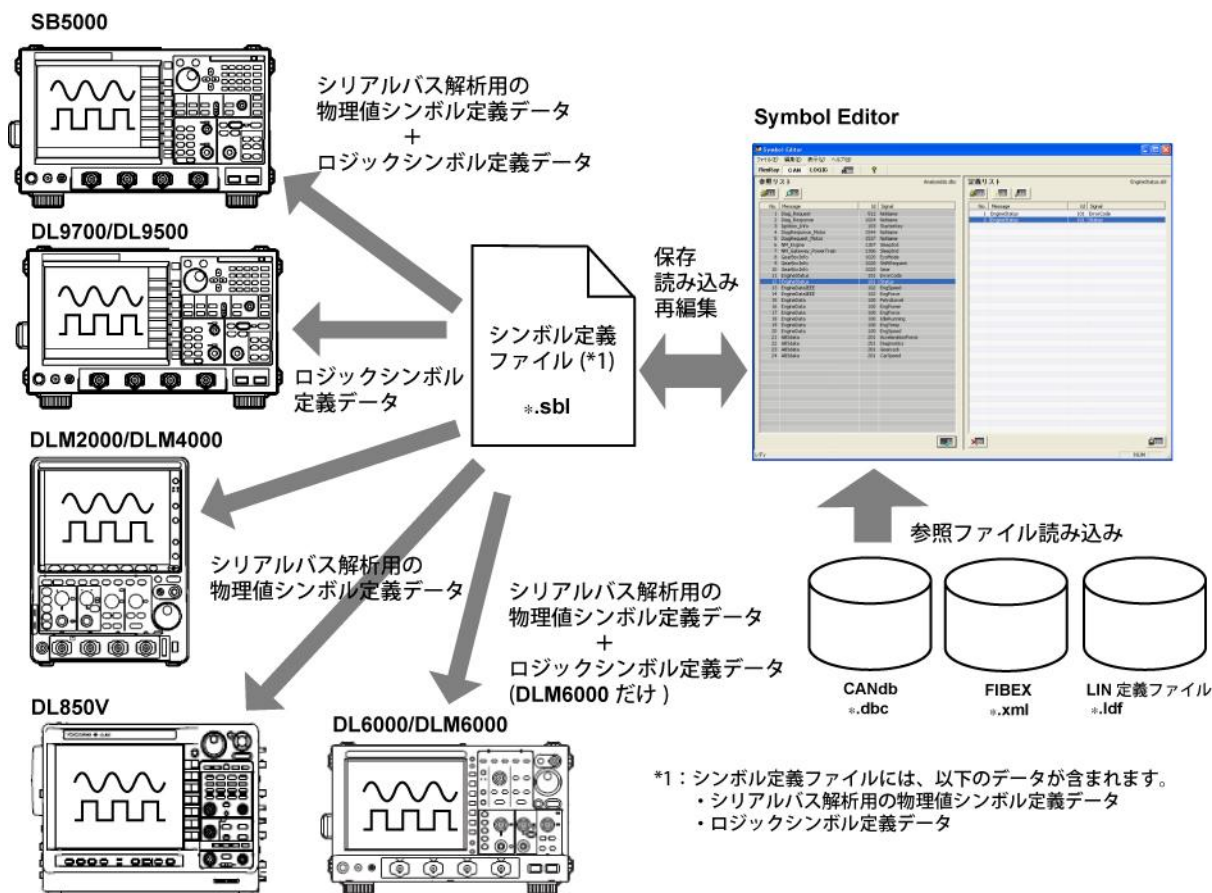
- | | |
|-----------|------|
| ●2008年1月 | 初版発行 |
| ●2008年6月 | 2版発行 |
| ●2008年11月 | 3版発行 |
| ●2009年4月 | 4版発行 |
| ●2009年10月 | 5版発行 |
| ●2010年9月 | 6版発行 |
| ●2010年12月 | 7版発行 |
| ●2012年2月 | 8版発行 |
| ●2012年11月 | 9版発行 |

目次

はじめに	ii
目次	iii
製品概要	4
動作に必要なシステム環境	5
ご使用にあたっての注意	6
インストール / アンインストール	7
1.1 ソフトウェアの起動と終了	8
1.2 起動画面の基本操作	9
2.1 参照ファイルを読み込む	10
2.2 定義表示	11
2.3 定義追加	13
3.1 定義ファイルを読み込む	14
3.2 新規定義	15
3.3 定義編集	18
3.4 定義削除	19
3.5 定義保存	20
4.1 メッセージ検索	21
4.2 リストの項目を全て選択する / ソートする	22
5 その他の機能	23

製品概要

機能



DL850V/DLM2000/DLM4000/DL6000/DLM6000/SB5000/DL850Vシリーズ用シリアルバス解析用物理値シンボル定義データの作成・編集

シリアルバス解析用の物理値シンボル定義データを作成できます。

作成したデータを保存し、DL850V/DLM2000/DLM4000/DL6000/DLM6000/SB5000 シリーズで利用することができます。保存したデータを再び読み込んで、再編集することができます。

CANdbデータのインポート

CANdbデータを読み込み、DL850V/DLM2000/DLM4000/DL6000/DLM6000/SB5000シリーズ用の物理値シンボル定義データを作成することができます。

LIN 定義データのインポート

LIN定義データを読み込み、DL850V用の物理値シンボル定義データを作成することができます。

FIBEXデータのインポート

FIBEXデータを読み込み、SB5000用のFlexRay用物理値シンボル定義データを作成することができます。

SB5000 / DLM6000 / DL9700 / DL9500シリーズ用ロジックシンボルデータの作成・編集

SB5000 / DLM6000 / DL9700 / DL9500シリーズで利用可能な、ロジックシンボル定義データを作成することができます。作成したデータを保存し、SB5000 / DLM6000 / DL9700 / DL9500シリーズで利用することができます。保存したデータを再び読み込んで、再編集することができます。

登録メッセージの検索

作成したデータ、読み込んだデータを対象として、登録メッセージを検索することができます。

動作に必要なシステム環境

パーソナルコンピュータ本体

日本語Windows XP SP2以降、Windows Vista、Windows 7が動作可能なパーソナルコンピュータで、Pentium4 2GHz以上のCPUを搭載し、512MB以上(推奨は1GB以上)のメモリを有したものがが必要です。

ディスプレイ

ディスプレイ：SVGA/XGA(推奨はXGA以上)

color：65536色以上

Windows XP SP2以降、Windows Vista、Windows 7に対応したものがが必要です。

マウス

Windows XP SP2以降、Windows Vista、Windows 7に対応したものがが必要です。

シンボル定義ファイル(*.sbl)を読み込めるDLシリーズとファームウェアバージョン

DL9700/DL9500シリーズ： Ver4.00以降

SB5000シリーズ： 全てのファームウェアバージョン

DLM2000シリーズ： 全てのファームウェアバージョン

DLM4000シリーズ： 全てのファームウェアバージョン

DL6000/DLM6000シリーズ： 全てのファームウェアバージョン

DL850V： 全てのファームウェアバージョン

ご使用にあたっての注意

免責事項

当社は、お客様が本ソフトウェアをダウンロード・インストールされた時点で、下記の免責事項を承諾いただいたものとみなします。

- ・ 本ソフトウェアをダウンロード・インストールすることによって生じるいかなる問題についても、当社はその責務を負いません
- ・ 本ソフトウェアの使用に関して、直接または間接に生じるいっさいの損害について、当社はその責務を負いません。
- ・ 本ソフトウェアは無償で提供されますが、本製品になんの欠陥もないという無制限の保証をするものではありません。また、本ソフトウェアに関する不具合修正や質問についてのお問い合わせをお受けできない場合があります。
- ・ 本ソフトウェアに関する財産権、所有権、知的財産権、その他一切の権限は、当社に帰属します。
- ・ 本ソフトウェアには、Microsoft CorporationのMSXMLを同梱しています。本ソフトウェアの使用に関しMSXMLに直接または間接に起因する何らかの問題または障害が発生した場合、Microsoft Corporationや当社がかかる問題や障害を知っていた場合、知りうる状態にあった場合や予測できた場合であったとしても、Microsoft Corporationや当社は、お客様または第三者に対し、一切責務を負わないものとし、かかる問題または障害から生じる、直接または間接を問わず、如何なる損害賠償についても責任を負わないものとします。また、お客様による本ソフトウェアの使用に関し、第三者からMSXMLに関連してMicrosoft Corporationおよび/または当社に、知的財産権（商標権および意匠権を除く）の侵害の申立を含みこれに限定されない、裁判、請求、または要求がなされた場合、お客様はお客様の費用でMicrosoft Corporationおよび/または当社を免責し、Microsoft Corporationおよび/または当社に、要した弁護士費用を含むすべての費用や損害賠償金等のすべてを補償するものとします。

使用上の注意

- ・ パーソナルコンピュータに装備されているスタンバイモードに入ると、本ソフトウェアの動作を継続できなくなるものがあります。スタンバイモードをオフにしてご使用ください。
- ・ FIBEXデータのインポート機能を使用する場合は、Microsoft CorporationのMSXML 6.0 SP1をインストールする必要があります。当パッケージにはMSXML 6.0 SP1のインストーラを同梱しています。手順に従ってインストールしてください。
インストールが必要なOSは、Microsoft Windows XP Service Pack 2 (SP2)です。
- ・ MSXML 6.0 SP1をインストールするためには、Windows Installer 3.1以降が必要です。
必要に応じてMicrosoftダウンロードセンターからダウンロードして下さい。

インストール / アンインストール

インストール方法

1. Symbol Editorを当社ホームページからダウンロードします。ご使用のPCの適切な場所にダウンロードしてください。
2. ダウンロードしたファイルは圧縮ファイルです。適切な解凍ソフトウェアを使って解凍します。「Symbol Editor」というフォルダが作成されます。

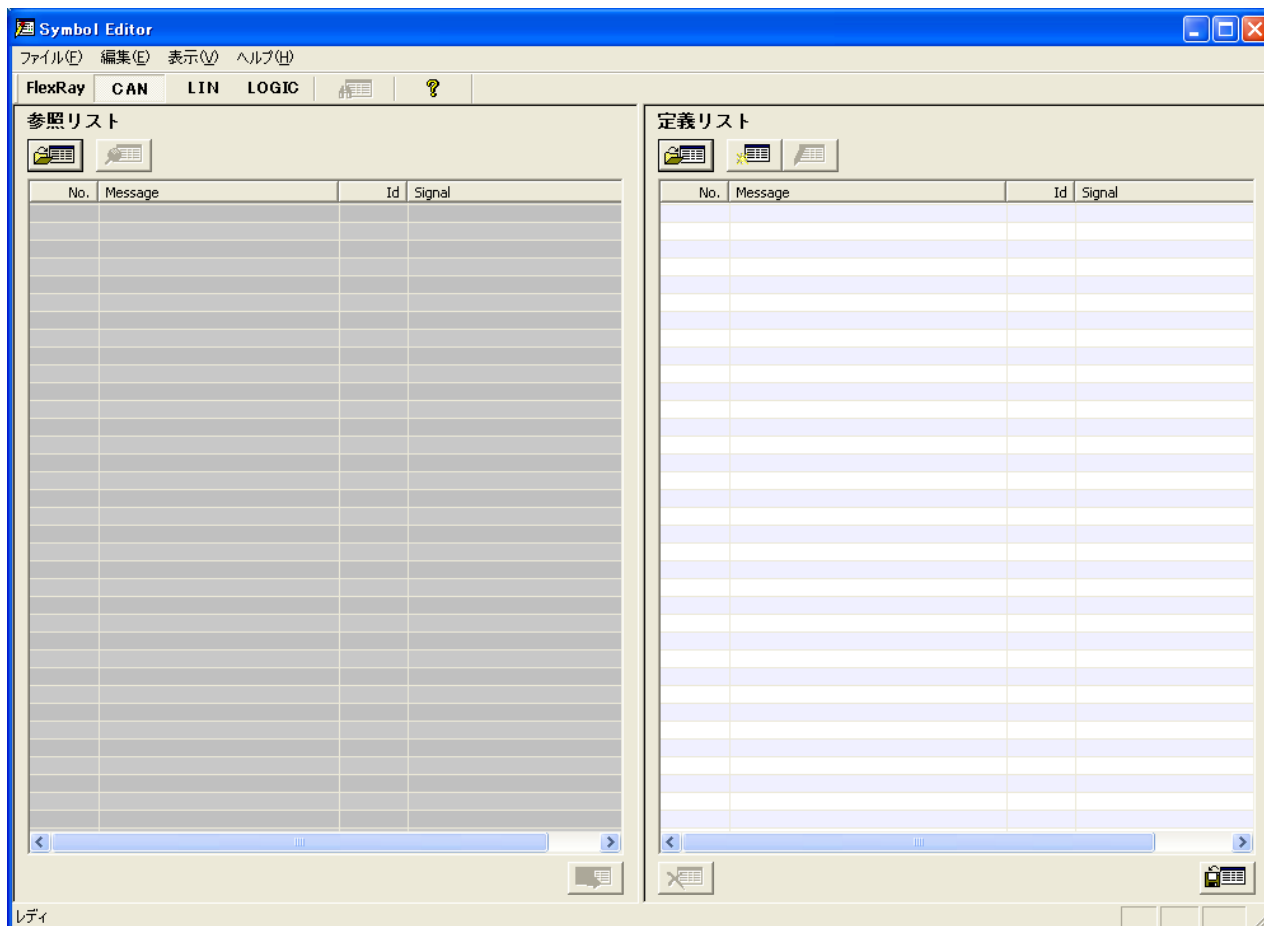
アンインストール方法

1. 「Symbol Editor」のフォルダをフォルダごと削除してください。

1.1 ソフトウェアの起動と終了

● ソフトウェアの起動

SymbolEditor.exe をダブルクリックすると、本ソフトウェアが起動し、下図のようにウィンドウが表示されます。



参照用データとして
ファイルを読み込みます。

定義データを編集します。

● ソフトウェアの終了

ファイル > 終了 を選択します。

1.2 起動画面の基本操作

編集データの変更

- ・ FlexRay
- ・ CAN
- ・ LOGIC
- ・ LIN

ヘルプの表示

検索：リストに登録されているメッセージの検索

開く：シンボル定義ファイル (*.sbl) の読み込み

新規定義：メッセージの新規作成

定義編集：登録済みメッセージの編集

メッセージのソート
表のタイトル(No.以外)をクリックすることで昇順・降順にソートされます

参照リスト (Comfort.dbc)

No.	Message	Id	Signal
1	TP_Dashboard	1541	data
2	Diag_Request	1792	NoName
3	Diag_Response	1536	NoName
4	DiagResponse_Motor	1537	data
5	DiagResponse_DoorLeft	1543	data
6	DiagRequest	1542	data
7	TP_Console	1540	data
8	NM_Gateway	1053	SleepInd
9	NM_DOORright	1052	SleepInd
10	NM_DOORleft	1051	SleepInd
11	NM_Console	1050	SleepInd
12	DOOR_1	497	WN_Position
13	DOOR_1	496	WN_Position
14	Console_2	417	Phase
15	Console_2	417	Active
16	Console_2	417	Light
17	Console_1	416	WN_right_up
18	Console_1	416	WN_right_down
19	Console_1	416	WN_left_up
20	Console_1	416	WN_left_down
21	Console_1	416	Mirror_r2d
22	Console_1	416	Mirror_r2u
23	Console_1	416	Mirror_r2r
24	Console_1	416	Mirror_r2l
25	Console_1	416	Mirror_l2d
26	Console_1	416	Mirror_l2u
27	Console_1	416	Mirror_l2r
28	Console_1	416	Mirror_l2l
29	Gateway_2	273	Voltage
30	Gateway_2	273	PetrolLevel
31	Gateway_2	273	EngSpeed
32	Gateway_2	273	CarSpeed
33	Gateway_2	273	EngineTemp
34	Gateway_1	272	Gear

定義リスト (ConfortTestData.sbl)

No.	Message	Id	Signal
1	Diag_Request	1792	NoName
2	Diag_Response	1536	NoName
3	DiagResponse_Motor	1537	data
4	DiagResponse_DoorLeft	1543	data
5	DiagRequest	1542	data
6	TP_Console	1540	data
7	NM_Gateway	1053	SleepInd
8	NM_DOORright	1052	SleepInd
9	NM_DOORleft	1051	SleepInd
10	NM_Console	1050	SleepInd

定義表示：定義メッセージの表示

定義追加：
メッセージを定義リストへ追加

**参照：CANdb ファイル (*.dbc) の読み込み
LIN 定義ファイル (*.ldf) の読み込み
FIBEX ファイル (*.xml) の読み込み
シンボル定義ファイル (*.sbl) の読み込み**

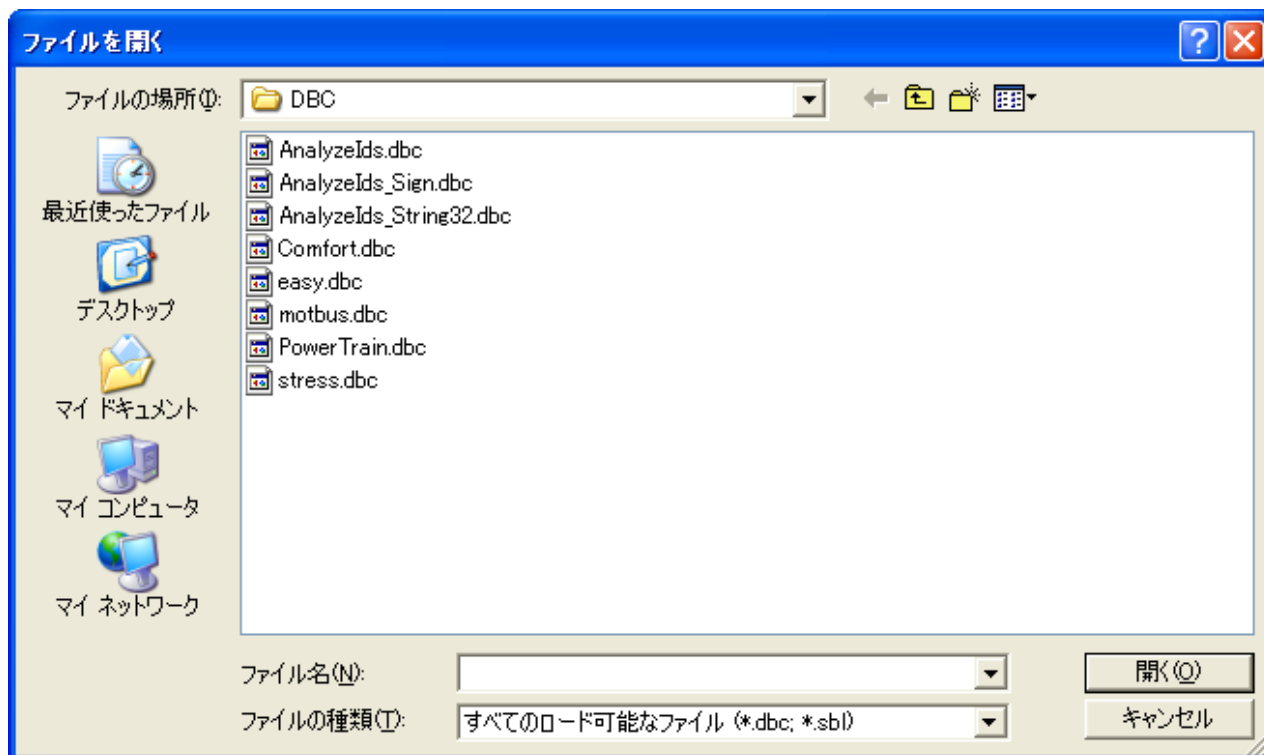
ファイル名：
編集ファイル名を表示

定義削除：
メッセージを定義リストから削除

定義保存：
シンボル定義ファイル保存

2.1 参照ファイルを読み込む

1. 参照リストで  をクリックするか、ファイル > 参照を選択すると、ファイルを開くダイアログボックスが表示されます。




2. ファイル名の欄に開きたいファイルを選択/入力して開くをクリックすると、参照リストにメッセージが表示されます。

Note:

- ・編集モードが CAN の場合、CANdb ファイル (*.dbc) とシンボル定義ファイル (*.sbl) が読み込めます。
- ・編集モードが FlexRay の場合、FIBEX ファイル (*.xml) とシンボル定義ファイル (*.sbl) が読み込めます。
FIBEX ファイルは FIBEX v2.x ベースの FlexRay 用定義のみに限ります。
- ・編集モードが LOGIC の場合、シンボル定義ファイル (*.sbl) が読み込めます。
- ・編集モードが LIN の場合、LIN 定義ファイル (*.ldf) とシンボル定義ファイル (*.sbl) が読み込めます。
- ・CANdb ファイルは、5000 メッセージまで読み込めます。
- ・FIBEX ファイルは、2048 メッセージまで読み込めます。
- ・LIN 定義ファイルは、3840 メッセージまで読み込めます。

2.2 定義表示

1. 参照リストでメッセージを選択し、をクリックするか、**編集 > 定義表示**を選択すると、定義表示ダイアログボックスが表示されます。

[FlexRay] Message and signal parameters

Message name:

Frame format:

Message id: ☒ Decimal ☐ Hex


Byte count:

Base cycle: Cycle repetition:

Signals

Signal name:

Bit order:

Start bit: 

Bit count:

Value type: ☒ Little(Intel) ☐ Big(Motorola)

Scaling

Factor: Maximum:

Offset: Minimum:

Unit:

OK キャンセル

[LOGIC] Message parameters

Message name:

Group:

Bit count:

Bit pattern

Hex:

Bin:

Don't care = "X"

OK キャンセル

[CAN] Message and signal parameters

Message name:

Frame format:


Message id: ☒ Decimal ☐ Hex

Byte count:

Signals

Signal name:

Bit order:

Start bit: 

Bit count:

Value type: ☒ Little(Intel) ☐ Big(Motorola)

Scaling

Factor: Maximum:

Offset: Minimum:

Unit:

OK キャンセル

[LIN] Message and signal parameters

Message name:


Message id: ☒ Decimal ☐ Hex

Byte count:

Checksum:

Signals

Signal name:

Start bit: 

Bit count:

Value type: ☒ Little(Intel) ☐ Big(Motorola)

Scaling

Factor: Maximum:

Offset: Minimum:

Unit:

OK キャンセル


Note:


- ・編集モードにより、ダイアログの表示内容が異なります。
- ・メッセージの内容は変更できません。


CAN, FlexRay, LIN

Start bit, Bit count の右側に、Message 内の Bit 使用状況が表示されます。

各矩形の意味


 白色：未使用ビット

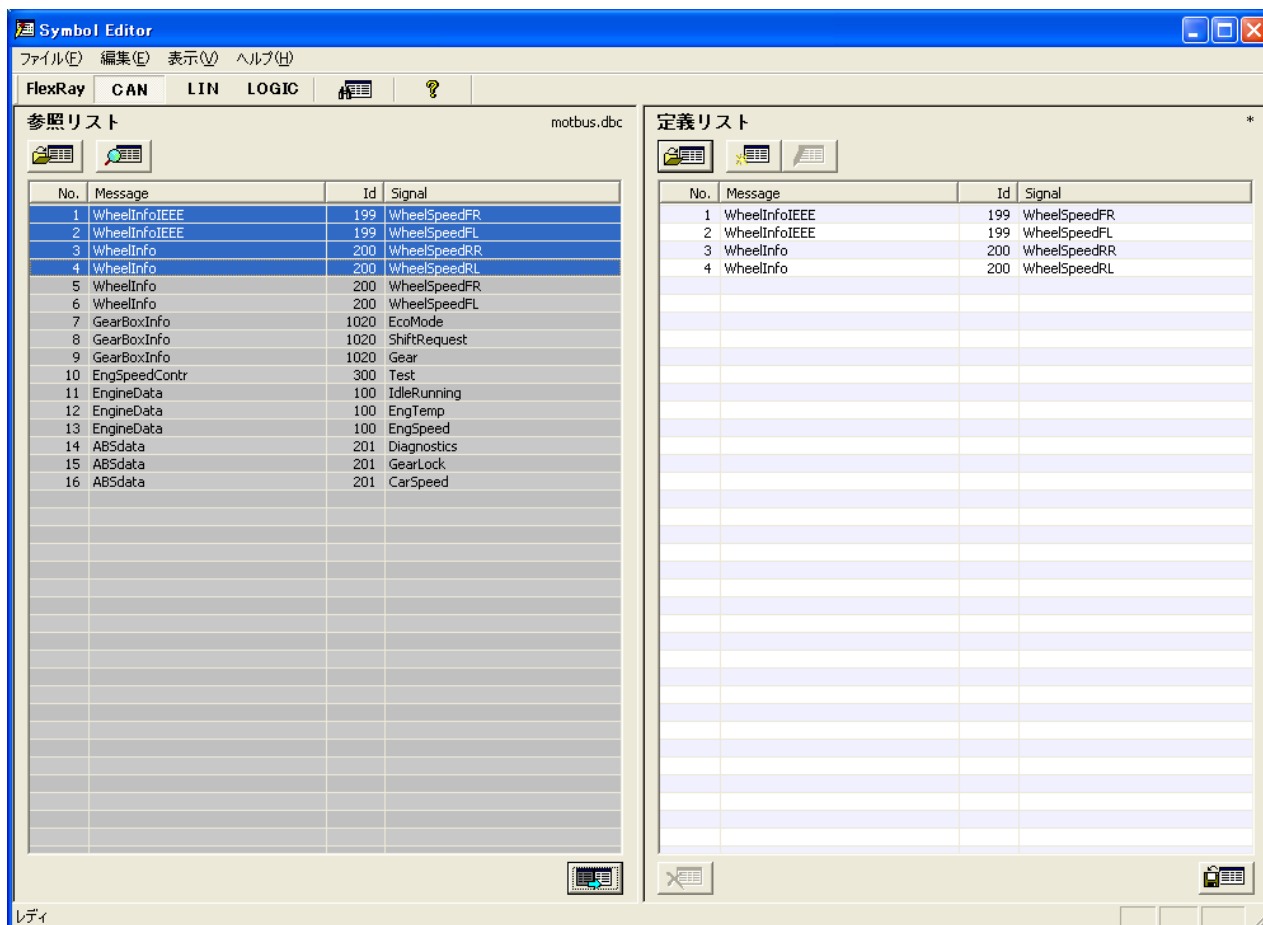
 緑色：当該 Signal が使用している Bit

 灰色：他の Signal が使用している Bit（4 種類の階調で複数の Signal を表現します）

- ・FIBEX 定義のエンコードタイプが IDENTICAL/LINNER 以外の場合、Start bit, Bit count, Scaling は空白で表示されます。
 - ・FlexRay の場合は Byte count が 8 を超える場合、Start bit に属するバイト位置から最大 64 ビット分を表示します。
-

2.3 定義追加


1. 参照リストでメッセージを選択し、をクリックするか、**編集 > 定義追加**を選択すると、定義リストへメッセージが追加されます。

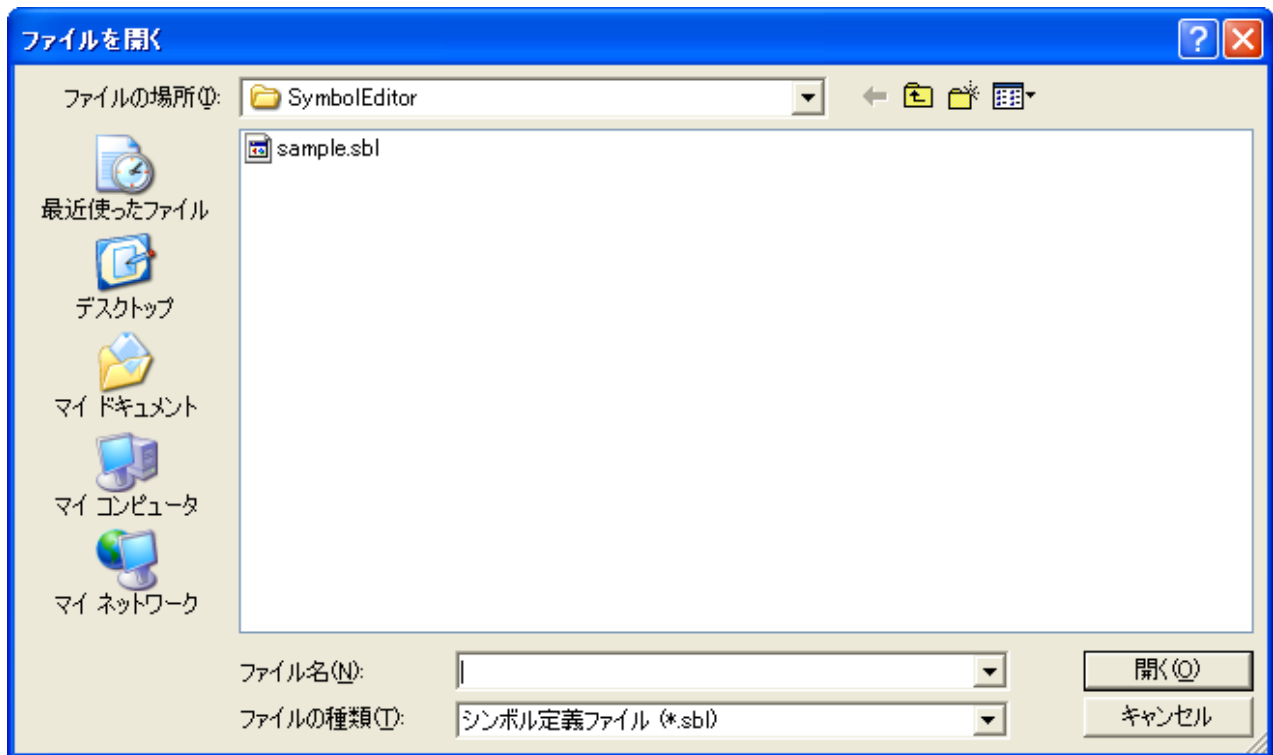


Note:

- ・追加するメッセージは1つまたは複数のメッセージを選択できます。
- ・複数のメッセージを選択するには、Ctrl キーを押しながら選択するファイルをクリックします。
- ・複数のメッセージを選択したときは、一括して定義リストへ追加されます。
- ・参照リストから定義リストへドラッグ・アンド・ドロップすることにより定義追加できます。
- ・定義リストの登録最大数は、500 です。
- ・以下の Signal の場合、定義への追加はできません。
 - (1) 他の signal と定義が重なっている
 - (2) 表示画面の一部が空白表示される
 - (3) エンコードタイプが IDENTICAL/LINNER 以外
 - (4) エンコード情報 (Bit Order, Start bit, Bit count, Byte Order 指定) が不正

3.1 定義ファイルを読み込む

1. 定義リストで  をクリックするか、ファイル > 開くを選択すると、ファイルを開くダイアログボックスが表示されます。




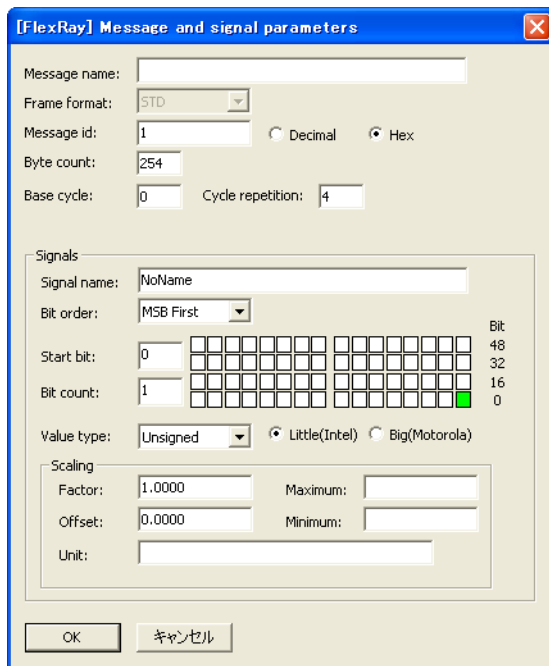
2. ファイル名の欄に開きたいファイルを選択/入力して開くをクリックすると、定義リストにメッセージが表示されます。

Note:

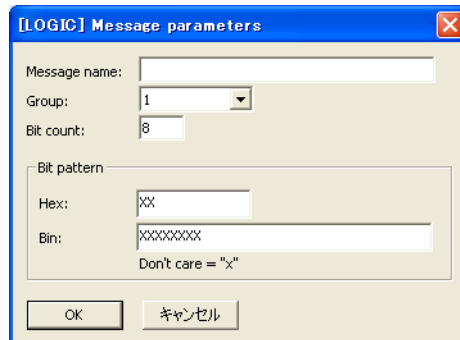
- ・ シンボル定義ファイル (*.sbl) を読み込めます。
-

3.2 新規定義

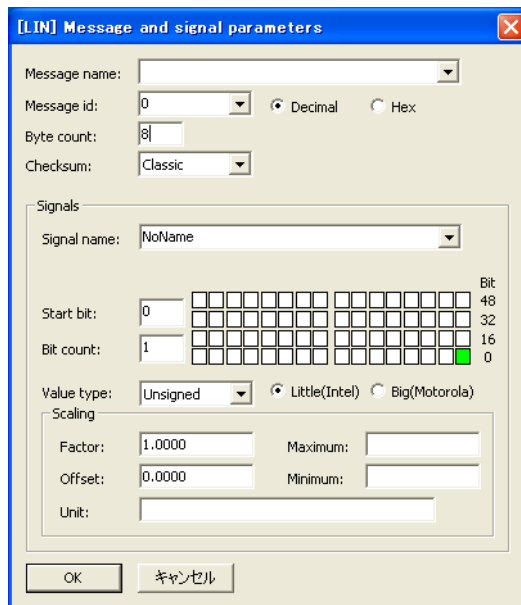
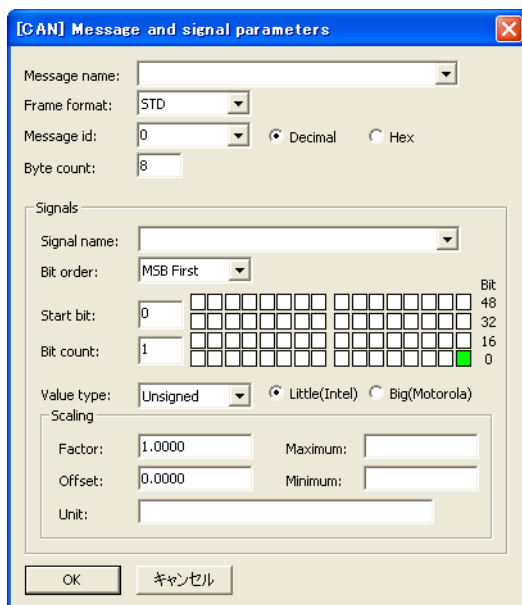
1. 定義リストでをクリックするか、**編集 > 新規定義**を選択すると、**新規定義**ダイアログボックスが表示されます。



FlexRay



LOGIC



Note:

- ・ 編集モードにより、ダイアログの表示内容が異なります。
- ・ Message name, Signal name, Unit に使用可能な文字
0~9、A~Z、a~z、%、_、(、)、-、/
- ・ 既に存在する Message name と同じ Message は作成できません。
- ・ 定義リストの登録最大数は、500 です。

CAN

- ・ Message 内で、既に存在する Signal name と同じ Signal は作成できません。
- ・ Message id の設定範囲
Frame format=STD の場合、0~2047 (7FF hex)
Frame format=XTD の場合、0~536870911 (1FFFFFFF hex)
- ・ Byte count の設定範囲は、0~8 です。
0 の場合、Signal の設定はできません。
- ・ Signal の Start bit の設定範囲は、0~(Byte count×8-1) です。
- ・ Signal の Bit count の設定範囲は、1~(Byte count×8- Start bit) です。
- ・ Message name, Signal name, Unit の最大文字数は 32 文字です。
- ・ 新規定義時には、Message name, Message id, Signal name のプルダウンメニューから、既に定義済みの Message や Signal の設定をコピーできます。
- ・ Start bit, Bit count の右側に、Message 内の Bit 使用状況が表示されます。
各矩形の意味
☐ 白色：未使用ビット
☒ 緑色：当該 Signal が使用している Bit
☐ 灰色：他の Signal が使用している Bit (4 種類の階調で複数の Signal を表現します)
マウスの左クリック、または、ドラッグでも選択可能です。

LIN

- ・ Message 内で、すでに存在する Signal name と同じ Signal は作成できません。
- ・ Message id の設定範囲は、0~63 (3F hex) です。
- ・ Byte count の設定範囲は、0~8 です。
0 の場合 Signal の設定はできません。
- ・ Signal の Start bit の設定範囲は、0~(Byte count×8-1) です。
- ・ Signal の Bit count の設定範囲は、1~(Byte count×8 - Start bit) です。
- ・ Message name, Signal name, Unit の最大文字数は 32 文字です。
- ・ 新規定義時には Message name, Signal name のプルダウンメニューから、既に定義済みの Message や Signal の設定をコピーできます。
- ・ Start bit, Bit count の右側に Message 内の Bit 使用状況が表示されます。
各矩形の意味
☐ 白色：未使用ビット
☒ 緑色：当該 Signal が使用している Bit
☐ 灰色：他の Signal が使用している Bit (4 種類の階調で複数の Signal を表現します。)
マウスの左クリック、またはドラッグでも選択可能です。

FlexRay

- ・ Message 内で、既に存在する Signal name と同じ Signal は作成できません。
- ・ Message id の設定範囲は、1~2047 (7FF hex)
- ・ Byte count の設定範囲は、0~254 です。
0 の場合、Signal の設定はできません。
- ・ Signal の Start bit の設定範囲は、0~(Byte count×8-1) です。
- ・ Signal の Bit count の設定範囲は、1~(Byte count×8- Start bit) です。
- ・ Base cycle の設定範囲は、0~(Cycle repetition-1) です。
- ・ Cycle repetition の設定範囲は、1~64 です。
FlexRay における各 Message を送信するスケジュールは、Base cycle と Cycle repetition によって定められます。
Base cycle : コミュニケーションサイクル (0~63) において、Message が最初に送信されるサイクルを指定します。
Cycle repetition: Base cycle 以降で Message が送信されるサイクル周期を指定します。
例 1) Base cycle=3, Cycle repetition=4 の場合
サイクルカウンタ 3, 7, 11, ..., 59, 63 が、Message を送信するスケジュールとして定義されます。
例 2) Base cycle=0, Cycle repetition=1 の場合
すべてのサイクルカウンタ 0, 1, 2, ..., 63 が、Message を送信するスケジュールとして定義されます。

-
- Message name, Signal name, Unit の最大文字数は 32 文字です。
 - 新規定義時には、Message name, Message id, Signal name のプルダウンメニューから、既に定義済みの Message や Signal の設定をコピーできます。
 - Start bit, Bit count の右側に、Message 内の Bit 使用状況が表示されます。

各矩形の意味

☐ 白色：未使用ビット

☒ 緑色：当該 Signal が使用している Bit

☐ 灰色：他の Signal が使用している Bit（4 種類の階調で複数の Signal を表現します）


Bit 使用状況は Start に該当するバイト位置から最大 64 ビット分です。

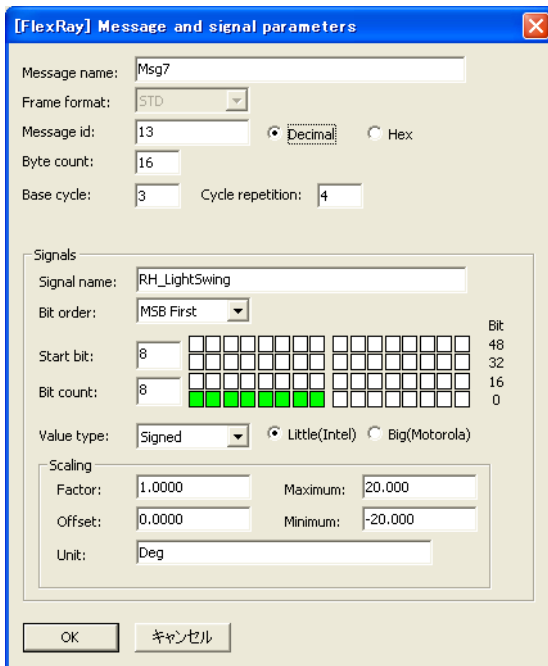
マウスの左クリック、または、ドラッグでは選択できません。

LOGIC

- 同一グループ内で、既に存在する Bit pattern と同じ Bit pattern は作成できません。
 - Symbol name の最大文字数は 16 文字です。
-

3.3 定義編集

1. 定義リストでメッセージを選択し、をクリックするか、**編集** > **定義編集**を選択すると、**定義編集**ダイアログボックスが表示されます。



[FlexRay] Message and signal parameters

Message name: Msg7

Frame format: STD

Message id: 13 ☒ Decimal ☐ Hex

Byte count: 16

Base cycle: 3 Cycle repetition: 4

Signals

Signal name: RH_LightSwing

Bit order: MSB First

Start bit: 8

Bit count: 8

Value type: Signed ☒ Little(Intel) ☐ Big(Motorola)

Scaling

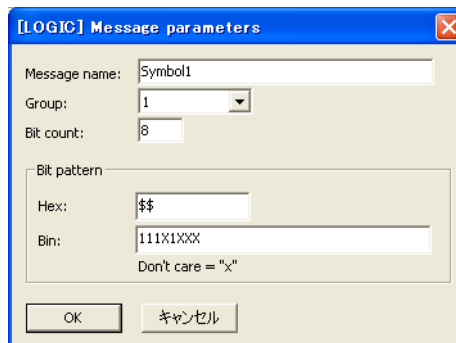
Factor: 1.0000 Maximum: 20.000

Offset: 0.0000 Minimum: -20.000

Unit: Deg

OK キャンセル

FlexRay



[LOGIC] Message parameters

Message name: Symbol1

Group: 1

Bit count: 8

Bit pattern

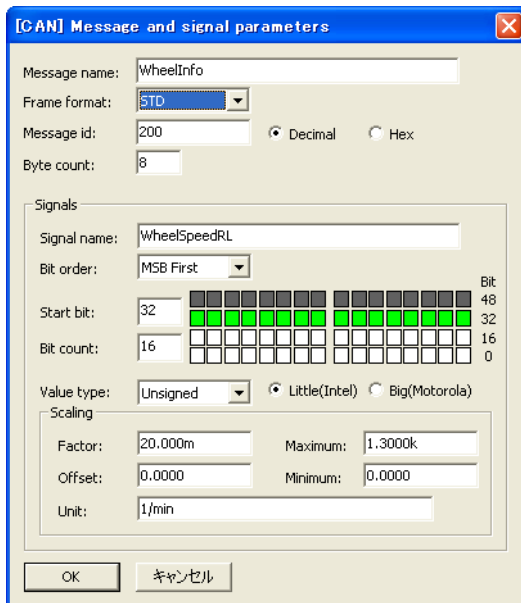
Hex: \$\$

Bin: 111X1XXX

Don't care = "x"

OK キャンセル

LOGIC



[CAN] Message and signal parameters

Message name: WheelInfo

Frame format: STD

Message id: 200 ☒ Decimal ☐ Hex

Byte count: 8

Signals

Signal name: WheelSpeedRL

Bit order: MSB First

Start bit: 32

Bit count: 16

Value type: Unsigned ☒ Little(Intel) ☐ Big(Motorola)

Scaling

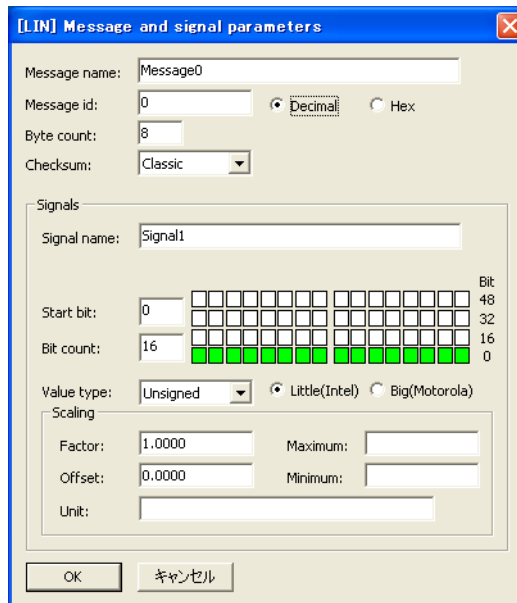
Factor: 20.000m Maximum: 1.3000k

Offset: 0.0000 Minimum: 0.0000

Unit: 1/min

OK キャンセル

CAN



[LIN] Message and signal parameters

Message name: Message0

Message id: 0 ☒ Decimal ☐ Hex

Byte count: 8

Checksum: Classic

Signals

Signal name: Signal1

Start bit: 0

Bit count: 16

Value type: Unsigned ☒ Little(Intel) ☐ Big(Motorola)

Scaling

Factor: 1.0000 Maximum:

Offset: 0.0000 Minimum:


Unit:

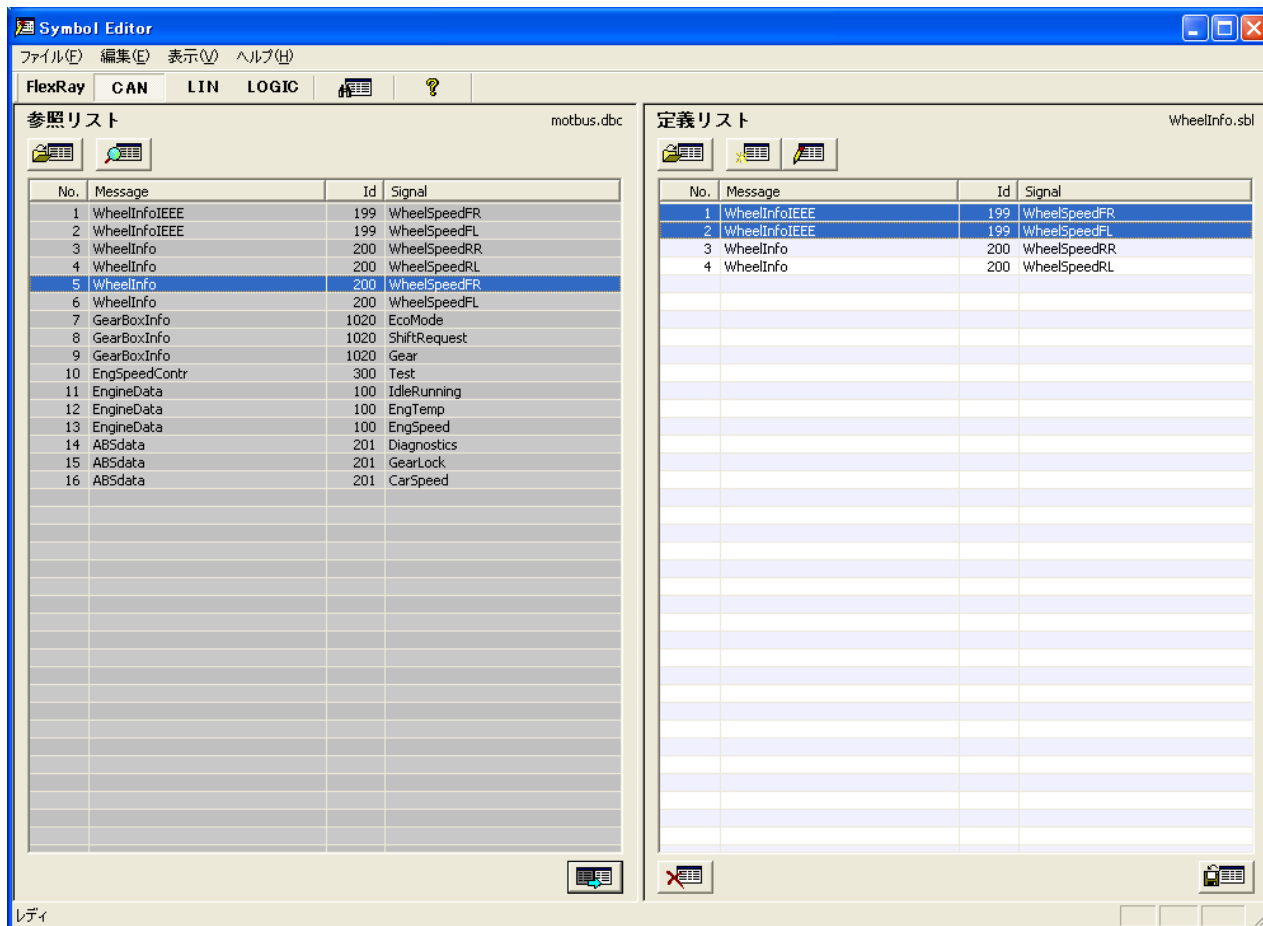
OK キャンセル

LIN

定義編集をするときの注意事項については、3.2 節の Note をご覧ください。

3.4 定義削除


1. 定義リストでメッセージを選択し、をクリックするか、**編集 > 定義削除**を選択すると、定義リストから選択されたメッセージが削除されます。

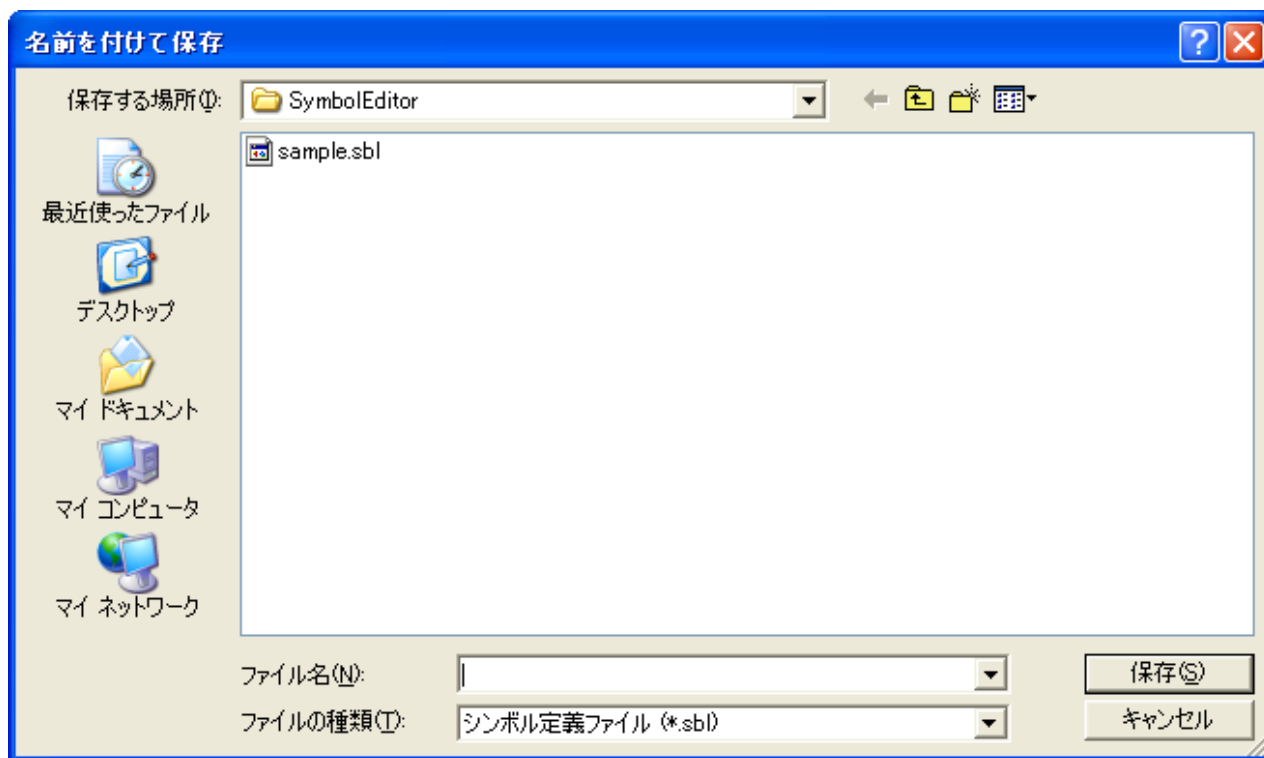


Note:

- ・ 削除するメッセージは1つまたは複数のメッセージを選択できます。複数のメッセージを選択するには、Ctrl キーを押しながら選択するメッセージをクリックします。複数のメッセージを選択したときは、一括して定義リストからメッセージを削除できます。

3.5 定義保存

1. 定義リストで  をクリックするか、ファイル > 保存を選択すると、名前をつけて保存ダイアログボックスが表示されます。




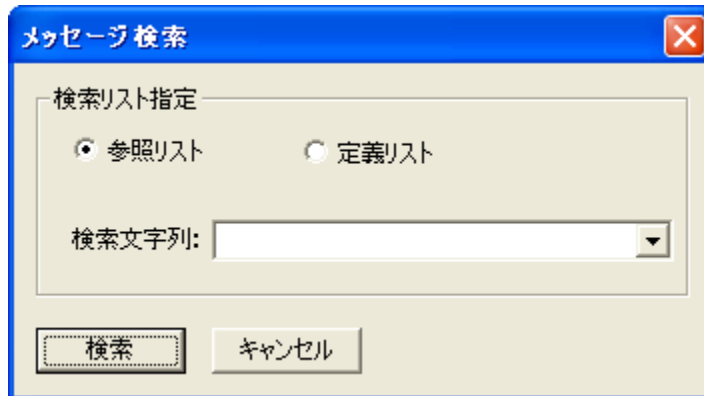
2. ファイル名の欄に保存したいファイルを選択/入力して保存をクリックすると、定義リストの内容がファイルに保存されます。

Note:

- ・ シンボル定義ファイル (*.sbl) を保存できます。
-

4.1 メッセージ検索

1.  をクリックするか、**編集** > **検索**を選択すると、**メッセージ検索**ダイアログボックスが表示されます。



2. 検索文字列の欄に検索したい文字列を入力して検索をクリックすると、検索対象リストの該当箇所が選択表示されます。

Note:

- ・ 検索文字列の履歴をプルダウンメニューから選択することができます。
-

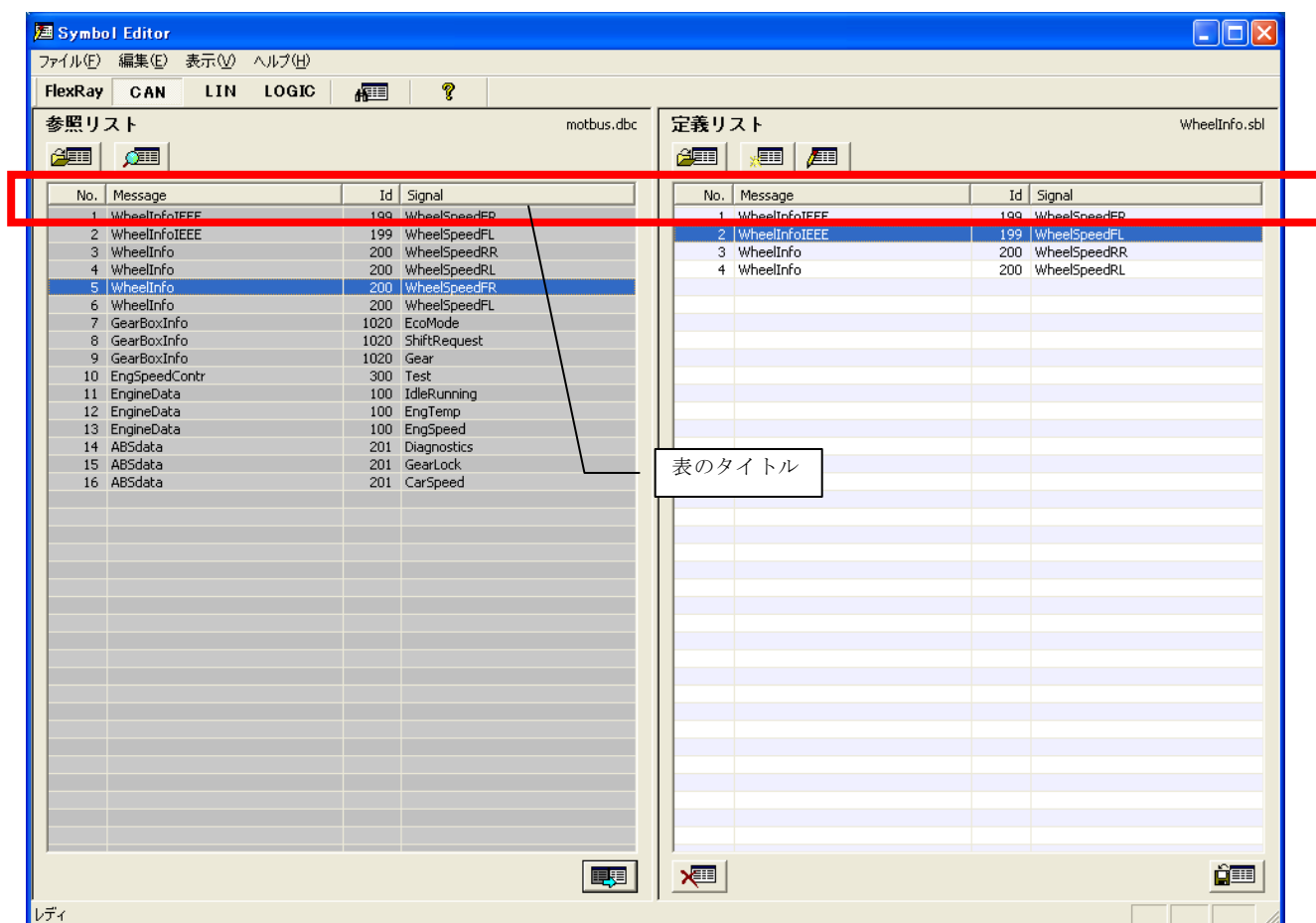
4.2 リストの項目を全て選択する / ソートする

● リストの項目を全て選択する

1. **編集 > すべて選択**を選択すると、フォーカスのあるリストの全項目が選択されます。

● リストの項目をソートする

1. No. 以外の表のタイトルをクリックすることで昇順・降順にソートされます



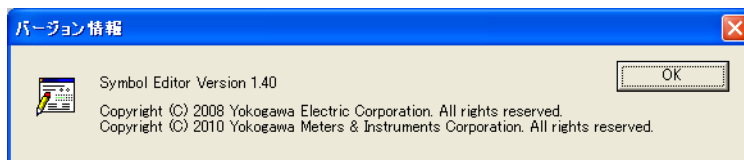
Note:

- ・ソートされた場合、タイトルに▲（昇順）、▼（降順）が表示されます。
- ・定義リストのメッセージを選択し、リスト内の任意の場所にドラッグ&ドロップすることにより、メッセージの順番が変更できます。


5 その他の機能

● バージョン情報

1. ヘルプ > バージョン情報を選択すると、バージョン情報が表示されます。



● ユーザーズマニュアル

1.  をクリックするか、ヘルプ > ユーザーズマニュアルを選択すると、User's Manual が表示されます。

Note:

- ・ PDF ファイルを開くためには、アドビシステム社の Adobe Reader が必要です。Adobe Reader は以下のページからダウンロードできます。

<http://www.adobe.com/jp>

● 横河電機の Web ページを見る

1. ヘルプ > YOKOGAWA Web ページ > Test & Measurement, または、ヘルプ > YOKOGAWA Web ページ > Symbol Editor を選択します。当社 Web ページが表示されます。

Note:

ご使用の PC がインターネットに接続している場合に、当社 Web ページが表示されます。

Test & Measurement : 当社の Test & Measurement のトップページが表示されます。

Symbol Editor : 本製品のバージョンアップ情報などの最新情報が掲載された、本製品のページが表示されます。
